

# 青い空に浮かぶ白い雲 51

—東大和市の小中一貫教育の推進 ④ (関連内容①29号②34号③44号)—

東大和市教育委員会 教育長 真如昌美

(今日の言葉) 苦難はそれを乗り越えられる人のところだけにやってくる (詠み人知らず)

## 1 東大和の小中一貫教育は「施設分離型の小中一貫教育」

現在、取組みを進めている東大和の小中一貫教育は、離れたところにある学校施設をそのまま使い、小学校入学時から中学校卒業までの9年間を見通した教育を進めていくものです。これを「施設分離型の小中一貫教育」と言います。

東大和市教育委員会が示す教育目標や基本方針を基に、各グループごとに9年間でどのような子どもを育てていくかを明らかにして小中学校が協力しながら教育を進めるものです。

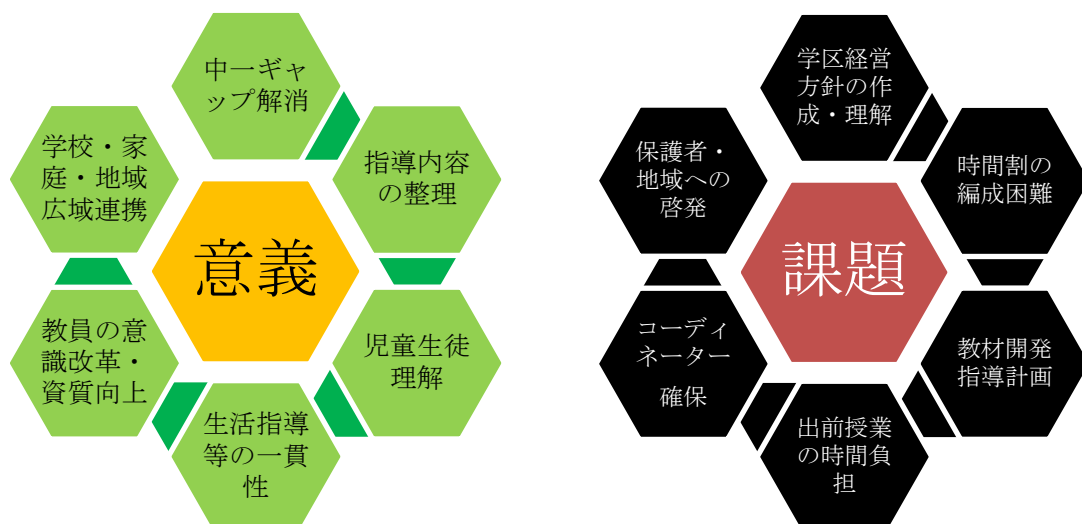
したがって、建物を新しくし、ひとつの学校の中に小学生と中学生とが入り、日々一緒に学校生活を送る「施設一体型の小中一貫教育」ではありません。

## 2 小中一貫教育の意義

- ・小学校から中学校へと進む中で、基本となる教育方針が小中で共通であることなどから、児童の不安が軽減され円滑な移行が期待できます。
- ・小中学校の教員が9年間の教育を見通すことで、指導内容の重なりなどが整理ができます。
- ・小中学校の教員の児童生徒理解が進み、生活指導にも一貫性が生まれます。
- ・小中学校の教員相互の理解と意識改革により学校経営の活性化や指導力の向上が期待できます。
- ・学校・家庭・地域の連携がさらに広がります。

## 3 施設分離型小中一貫教育の課題

- ・学校が離れているため、学区経営方針の作成や小中学校の教員の打合せ時間の確保が困難です。
- ・小学校と中学校とでは一単位時間が異なり時間割の編成・調整が困難です。
- ・教材開発や指導計画の作成に時間がかかります。
- ・学校が離れているため、出前授業で教員の負担が増えることが予想されます。
- ・児童生徒の移動手段と時間の確保が困難です。
- ・交流が単発になりやすいと考えられます。
- ・さらに小中一貫教育を充実させるためにはコーディネーターも必要です。



◎東大和の小中一貫教育は、身の丈に応じた無理のない小中一貫教育を進めて、のびやかな育ちを期待してきます。小中一貫教育は、目的ではなくあくまでも手段として進めていきます。